

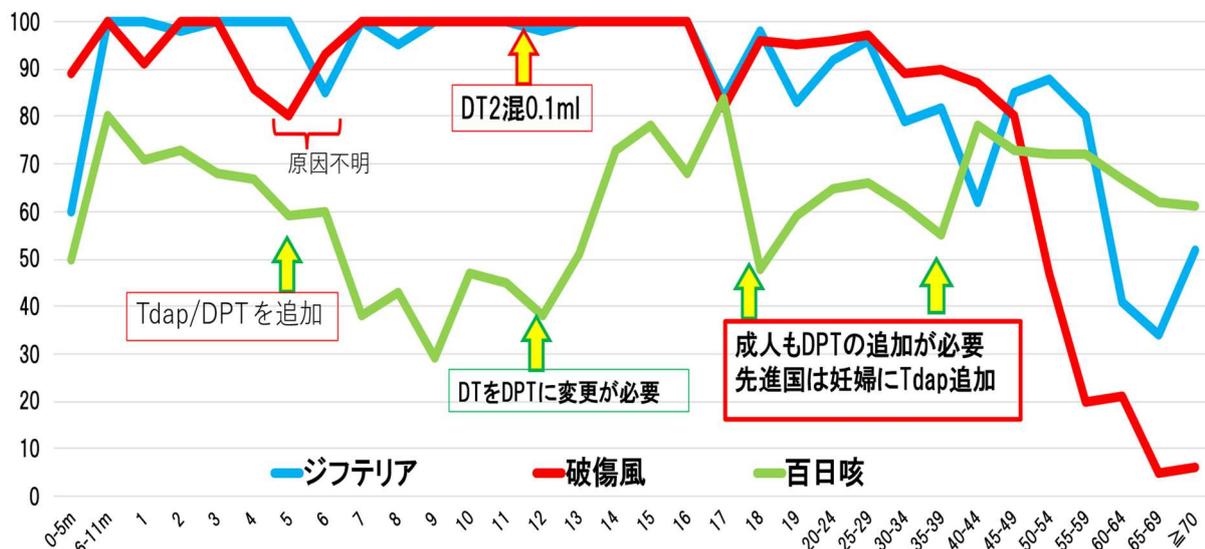
# ジフテリア(D)、破傷風(T)、百日咳(P)の有効な免疫率の推移(2018年)

DとTの5-6歳での低下の原因は不明だが、海外は4-6歳でDPTまたはTdapを追加する。日本でもDPTの5回目を検討。Pは10歳ころまで低下するので、海外渡航に際して入学前(4-6歳)以降でのDPT/Tdapでの追加を推奨。成人でも10年ごとにDPT/Tdapでの追加が必要。T/D/DTは無意味。CDCの推奨はTdap

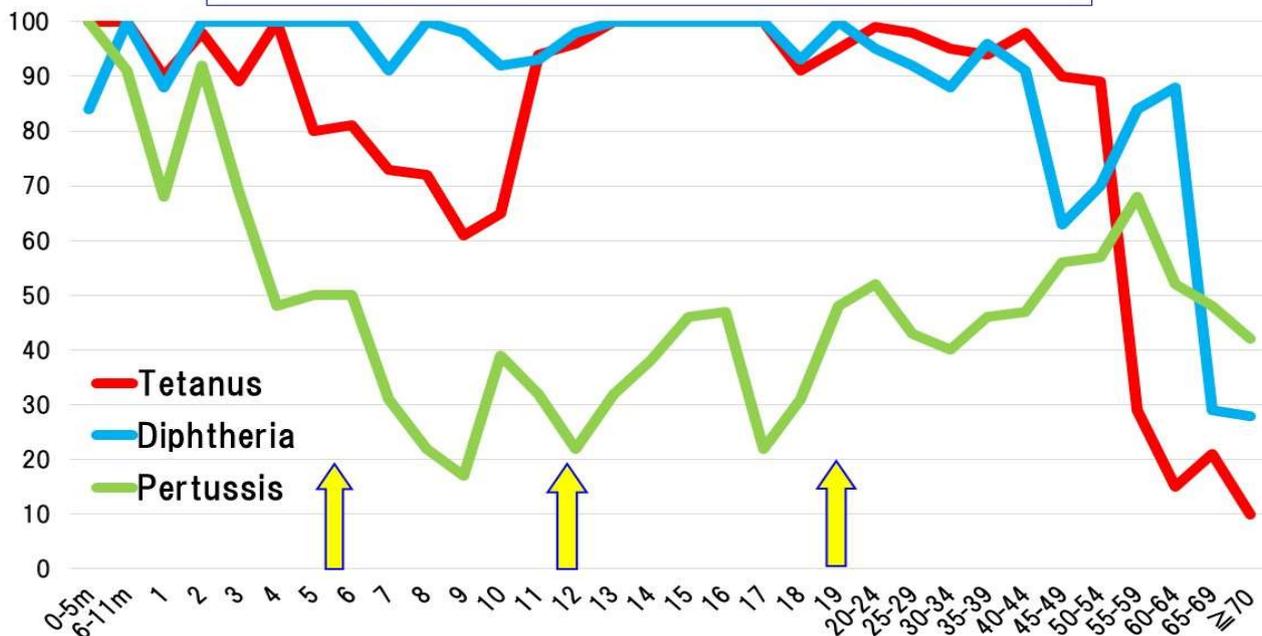
## ① 年齢群別の抗体保有状況(2018年)

2018年度感染症流行予測調査より、基準値の推移を編集

年齢/年齢群別の抗体保有状況, 2018年 -- 2018年度感染症流行予測調査より --		
ジフテリア ≥ 0.01 IU/ml保有率 (%)	抗体価測定: 培養細胞カウティング法	n: 1273人
破傷風 ≥ 0.01 IU/ml保有率 (%)	抗体価測定: 粒子凝集法	n: 1047人
百日咳 ≥ 10.0 EU/ml保有率 (%)	抗体価測定: PT酵素免疫法 (ELISA/IgG)	n: 1431人



## 破傷風・ジフテリア・百日咳抗体陽転率の推移(2023年)



2023年では2018年からの5年間で破傷風の低下が著しい。DTaPからDTaP-IPVの4種混合への切り替え時に含有破傷風力価の低下が疑われる。5-6歳と12歳で、DTaPの緊急追加接種が必要である。成人後にも1回の追加を推奨する。

海外は4-6歳でDTaPを追加する。日本でもDTaPの5回目を検討中。

11・12歳の2期はDTからDTaP/Tdapへの変更が急務である。

成人でも10年毎にDTaPまたはTdapでの追加を考える。

婚活妊活にDTaP、妊婦はTdapを推奨する。